

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	全 員 協 議 会	場 所	全 員 協 議 会 室
		担 当 職 員	熊 谷 夏 子
日 時	令 和 3 年 1 月 1 3 日 (水 曜 日)	開 議	1 3 時 0 0 分
		閉 議	1 4 時 0 7 分
出 席 議 員	議 員 2 3 名 (欠 席 : 田 中 議 員 1 名)		
執 行 機 関 出 席 者	-		
事 務 局 出 席 者	山 内 議 会 事 務 局 長、井 上 議 会 事 務 局 次 長、鈴 木 議 事 調 査 係 長、熊 谷		
傍 聴	<input checked="" type="checkbox"/> 可・否	報 道 関 係 者 1 名	

## 会 議 の 概 要

開 議 1 3 : 0 0

### 1 開 議

[齊藤議長 開議]

### 2 1 2 月 議 会 定 例 記 者 会 見 に お け る 議 長 発 言 に つ い て

<齊藤議長>

全 員 協 議 会 を 招 集 し た と ころ、議 員 各 位 に お か れ て は、年 初 の 大 変 お 忙 し い と ころ、お 集 ま り い た だ き 感 謝 す る。本 日 は、令 和 2 年 1 2 月 議 会 最 終 日 の 議 長 記 者 会 見 に お い て、議 員 の 総 意 で は な い 発 言 を し、議 長 と し て 大 変 至 ら ぬ こ と で あ り、深 く お わ び 申 し 上 げ る。1 2 月 2 5 日 に は 亀 岡 商 工 会 議 所、亀 岡 市 商 店 街 連 盟、亀 岡 料 飲 連 合 会、亀 岡 商 業 協 同 組 合 に お わ び の 電 話 を さ せ て い た だ い た。ま た、議 会 事 務 局 に 1 件、議 長 と 話 を し た い と の 電 話 が あ り、そ の 方 に 電 話 で お わ び を 申 し 上 げ た。そ の 後、直 接 お 店 に 伺 い、謝 罪 し た。緑 風 会、共 産 党 議 員 団、公 明 党 議 員 団 の 各 幹 事 長 か ら、ご 注 意、ご 指 導 を い た だ き、フ ェ イ ス ブ ッ ク の 投 稿 を 自 粛 す る と と も に、2 8 日 に 幹 事 会 を 開 き、皆 さ ん に 経 過 説 明 と お わ び を 申 し 上 げ、今 日 に 至 っ て い る。あ ら た め て、議 長 と し て の 発 言 を 深 く 反 省 し、お わ び 申 し 上 げ る。

<西口議員>

議 員 各 位 に は、大 変 お 忙 し い 中、全 員 協 議 会 に 出 席 い た だ き、感 謝 申 し 上 げ る と と

もに、おわび申し上げます。12月議会後、あのよう報道されたことは、議会の意思ではないというにも関わらず、私見として申し述べたことが記事となったことにより、多くの市民の皆さん、また、議員各位に大変ご迷惑をおかけしたことに、会派を束ねる幹事長として、心からおわび申し上げます。会派同志でも一度集まり、この対応については、不適切であったと確認し、私から議長に厳重注意した。これは、12月28日の幹事会で申し上げたとおりである。我々も、大変遺憾な思いをもって、幹事会に出席した。最終的に、市民の前であいさつすること等を自粛することについて同意し、木曾幹事長のご指導のとおりまとめていただいたと思っている。今回の件については、あらゆるところから、どのような意見が出てくるかを想定しながら、過ごしてきた。議長も謝罪に歩いて回ってきた。議員各位から、議長から直接説明する場がないということで、木曾幹事長に問い合わせたところ、議員の皆さんにあらためて謝罪の場をつくりたいというお言葉をいただいた。皆さんのご意見を伺いながら、対応について検討し、自粛という形とさせていただければ、誠にありがたく思っている。会派から議長を輩出している関係でおわびする。改めて、緑風会、共産党議員団、公明党議員団の皆さん、会派に属さない小松議員、すべての議員に心からおわび申し上げます。

<齊藤議長>

各議員の意見を拝聴したい。

<三宅議員>

私は24日の本会議の次の日、国民健康保険南丹病院組合議会に出席した後、議長とお話させていただいた。私は「これはまずかったのではないか」と言ったが、議長は「新聞記者に言葉を切り取られた」と言われた。「言葉を切り取られた」という表現は、しゃべってしまって悪いところだけ切り取られたというように感じた。その後、議長としての発言は間違いであったと謝罪があった。個人的な意見だと認識している。個人的な意見としても、あの発言をしたという認識でよいのか。商工会議所、商店街連盟、商売人としてあの発言は許せない。1議員の発言としても許せない。そこをはっきりと教えていただきたい。

<齊藤議長>

間違った言葉だと大変反省している。

<三上議員>

新清流会の気持ちは受け止めたとしても、西口幹事長は、議長は議会の意思ではなく、私見を言ったと言われたが、議長は我々の上司である。記者会見の場で議長からあの発言に至った経緯を聞きたい。電話をしたこと等については、議長自らおっしゃるべきである。

<齊藤議長>

議長として言ったことになるので、すべて撤回して反省する。議長記者会見の中での言葉であり、私心ではなく、大変申し訳なく思っている。各団体に年始もおわびに行っている。言葉は慎むべきだと考えている。

<並河議員>

商工会議所は、いろいろと知恵を出しながら進めていかれた中で、8月に要望書を出された。地元業者の思い、実態を議長に分かってもらいたいという内容であったにも関わらず、そのような発言をされたことは、どのように受け止められたか疑問に思っている。それぞれいろいろ思いがあるかと思うが、議長である以上は、議会の代表者であり、責任を持って記者会見をやってほしかった。商工会議所の思いをどのように受け止めて進めてこられたのか、私はよく分からないので、お話しいただきたい。

<齊藤議長>

商工会議所からの要望書は受け取っている。環境厚生常任委員会で話をもんでいた。市長からは、12月議会の最終日に、2カ月間の猶予期間を持つと説明があった。十二分ではないかもしれないが、対応いただいていると判断した。

<並河議員>

議長としての思いを聞きたい。

<齊藤議長>

結果的に、レジ袋の提供禁止が、亀岡のためになるという思いであった。

<木曾議員>

先ほど、西口幹事長や会派の皆さんからおわびいただいた。会派選出であるかもしれないが、議長は議員24人の代表者である。齊藤議長には、その認識が足りなかったと思っている。これに端を発し、いろいろなことが起きている。昨年3月議会での審議時に、いろいろな方が来られて、実情を訴えていただいた。私たちの採決態度としては、採決には加わらず、退席を考えていた。その後、議長は私たちの会派の部屋に来られて、「前に進めたいし、なんとか賛成してもらわないとカッコ悪い」と言われた。「前に進める」としきりに言われた。その段階でそのように発言されていたことを思い出した。市長の英断により、8月1日施行を、1月1日施行にされた。私見かどうかは別にしても、議長の立場で、緑風会に来られた。無視された形で発言された。私は正直怒っていた。あのままであれば、間違いなく私どもの会派は退席していた。商業者の思いに心を打たれ、そのとおりだという思いがある。議長としての自覚と認識がなかったから、市長が12月議会で現在のコロナ禍のことを考えられたにも関わらず、あのような発言をされた。新聞記者に3回同じ

ことを言われたと聞いた。非常に残念である。幹事長、幹事だけの話ではなく、議員1人1人の問題であり、議長としての思い、気持ち、これから何をしなければならぬかを、きちとんと自らが考えていただきたいと思った。緑風会、共産党議員団、公明党議員団の3会派で抗議文を出した。その内容を踏まえ幹事会を開かれたが、我々が期待していたものではなかったのは非常に残念である。そして、その後、3会派の幹事長名で口頭により、全員協議会の開催を議長に事務局を通じて申し入れ、本日開いていただいた。今後、議会としてどうあるべきかを総括しなければならない。議長選挙に出られたときに議会改革のことを言われた。それを実行されていけば、このようなことにはならなかった。そのように私は思っている。会派の皆さんを巻き込まずに、今回、自分の言葉で24人の議員の代表として発言し、市民に対して謝罪と、コロナで疲弊して苦しんでおられる業者の皆さんに、コメントを残して、きちんと整理いただくのがよいと思う。

#### <齊藤議長>

3月議会のことについては、議長として調整するという意味で言ったかもしれない。しかし、反対されるなら反対されても結構だと言った。共産党議員団かどちらかに言った。覚えていらっしゃるかは別として、常任委員会の審査を見てそのように伝えた。どうしてもではなく、調整という意味であった。私の身の振り方として、議長を辞職する思いでいたので、この前の幹事会でも話をさせていただいた。

#### <木曾議員>

私が聞きたいのはそのようなことではない。答えになっていない。そもそも、議長としては審査を見守り、条例案がどのようになっていくかを見据えて、最終的に取りまとめをして、それを受け理事者に話をするのが筋である。ところが議長は間違っていて、先に賛成するか反対するかと言われた。その裁きをしていただくだけでよい。そこを勘違いするから、このようなことが起こった。前向きに進めたいからそう思った。繁忙期とはいうが、コロナ禍であり、暇だから入れればよいと言われたことは、逆なでしたことになると思う。皆さんが現実の話をして、どのように受け止めておられるかは全然聞いていなかった。一部の人々が怒っていると私は受け止めた。役員の方とお会いした。その方は「齊藤さんと付き合いがあるが、信じられなかった」、「なぜあんな発言をするのか、商業者のことをなんと思っているのか」と言われた。また、私に対して「あなたも市議会議員の一人ではないか」、「齊藤さんが言われた話では済まない」「市議会が言われたと受けとめている」とも言われた。それほど感情的になられていたことに対して、私は残念に思った。市民、特に業者としての受け止め方は、そのようなことだと思った。今回の問題が、大きく広がっていることに対し、私は亀岡市議会への信頼が失墜したと思っている。

業者へ追い打ちをかける話をされたことに対して、きちんと謝罪して、信頼を回復し、市民の皆さんに理解してもらえるようにしなければならないと思っている。そこをしっかりと話をさせていただきたい。そして、いつまでも残さず、自分で結論を出して前に進めていただいてはどうか。今日も新聞記者が来られているので、きちんと記者会見で話をさせていただくのがよい。はっきりと言うが、あのコメントは亀岡市議会の意思ではない。それだけは、声を大にして言う。

<齊藤議長>

亀岡市議会の意思ではないとして、謝罪した。市議会の混乱を招くことのないようにしたい。

<赤坂議員>

幹事会の後、すぐに議長を辞められると思っていた。自粛とされていたので、疑問に思っていた。昨日、商業者に「市議会は大丈夫か」「仲良しこよしでやっているからこんなことになる」と言われた。上に立った時、全部背負っていると考えて行動してもらいたい。新清流会として謝られたが、なぜ謝られているのかよく分からない。他の議員もいろいろな思いがあると思う。きっちりとけじめをつけていただきたい。今も市議会がだめだと言われている。年末の幹事会でもおわびするように言った。まだ謝罪に来られていないと言われるので、けじめをつけた方がよいと思う。

<三上議員>

多くの議員は、議長から直接話を聞いていない。幹事会では何度か私見が出たとは聞いた。議長は記者会見において、前半は飛ばされて、後半部分だけを書かれたと言われていた。何をどのようなつもりで言われたのか。議会の意思ではないことを言ったことはもちろん駄目であるが、その私見の部分を疑われても仕方がない。今さら何を言っても濁されて、事の顛末が分からない。その発言がだめだと思ったのは、かなり時間が経ってからだと思う。年末の幹事会でも、年末年始は繁忙期だったと知ったと言われたが、それを大反省すべきである。その時点では、そのような見解であったので、それも含め言ってほしい。

<齊藤議長>

プラスチック製レジ袋の提供禁止は、亀岡市のためになる。亀山市と間違われるほど亀岡市の認知度は低い。これまでの取組で、メディアにより亀岡の名前が売れてきている。ふるさと納税も年末に20億円になったが、そのような発信によるものではないかと思っている。このことは、全体的に亀岡の商業者のためにもなるので、やっていかなければならない。施行日については、2カ月間の猶予期間をとると市長が言われたので、1月にすべきであると考えます。私が一番反省しているのは、2

2～23日に、報道でコロナの第3波でそういうことになるのが頭をよぎり、軽はずみな発言をしてしまった。言った後に、大変なことを言ったと自分でも思った。まさか出るとは思わなかった。商業者の所に行って話をしていたのは、やはり繁忙期は繁忙するということであり、深く反省している。

<藤本議員>

プラスチック製レジ袋提供禁止条例は全国初であり、注目を集めている。その中で、市長が事業者や市民の皆さんへの影響を配慮して、2カ月間の猶予期間を持ってじっくりと実施したいとされているにもかかわらず、その後、議会の代表として議長が記者会見された。注目を集めているだけに、このような発言をされたことは、亀岡市議会は何を考えているのか。商工会議所からの延期要望も議長宛てに出された。また、商業者からもこのような状況であり、売上が上がらない時に、紙袋を買わなければならない。大変厳しいという要望があったにもかかわらず、私見として言われた。早く施行すればよいと、元々そのような考え方を持っているからである。全国から注目を集めているだけに、亀岡市議会は皆そのような考え方であったとしか捉えられない。12月28日の幹事会で、議長は謝罪され、年末年始の公務は副議長にお願いされ、自分はしっかりとけじめをつけるという話であった。その認識が足りなかったのではないか。会派の皆さんは、どのような気持ちか聞かせていただきたい。そして、議長としてしっかりと判断しなければならない。副議長からは、謝罪していただくよりも、議長を守る立場として、どのような気持ちでおられるのか意見を聞きたい。

<奥野副議長>

私も記者会見に出ていて、議長のそばにいながら、議長の発言についてそのまま注意ができなかった。私も同席していた者として、もう少し注意を払っていればよかった。藤本議員も副議長をされていたので、記者会見の雰囲気はご存知だと思う。議長の発言については、私心であろうがなかろうが、記事に載るのが普通だと思う。

<西口議員>

先ほど謝罪もさせていただいた。あとは皆さんのご意見に委ねるしかない。

<菱田議員>

市議会と行政トップが、プラスチックごみゼロ宣言を一緒にやってきた。環境先進都市を目指して、議会でもさまざまな議論をされて、条例施行に至っている。その中で出た発言ということで、大変残念である。議長には猛省いただきたい。

<浅田議員>

私も議長の発言については、猛省すべきと思う。幹事会でもそのように申し上げた。皆さんのご意見を伺った上で、議長が判断されるものと考えている。

<石野議員>

記者会見は、これまでから定例会ごとにあつたが、なぜこの12月にこのような形となつてしまったのか。議長が最終的には判断されるべきと思う。

<小川議員>

今回の件は、猛省してほしい。今後のことについては、皆さんのご意見を聞いていただきたいと思う。

<平本議員>

同じ会派の議員として、大変申し訳なく思う。大変残念である。所管の委員として、他の同委員と喧々諤々の議論をして、ここまで無事にやってきたと思っていた。誠に残念である。あの言葉は市民感情を逆なでするもので、事業者に対して大変失礼であつたので、猛省していただきたい。

<大塚議員>

1月1日の施行を目前にしての発言だったので、商業者の方々がどのような気分になられたのかを考えると、大変残念な発言だった。議長も大変反省をされている。私自身も勉強になった。これから、気を付けて発言しなければならないという思いである。

<福井議員>

冒頭に、幹事長以下、頭を下げさせていただいたのは、それでどうこうというわけではない。会派の同志として、今回皆さんが市民の方からお叱りを受けるという結果になつていて、おわびをしたつもりである。その点だけ、誤解のないようお願いしたい。この条例に関して、私が日本で一番住みにくい町になると言ったとき、議長は笑つていた。その真意をわかつてもらわないといけない。誰も最初から反対しようと思つてやつていたわけではない。結果として、商工会議所を呼んで、全員協議会をして、その経過の中で市長も譲るところは譲られた。施行日も譲つて、2カ月間のスタートアップ期間まで譲られた。議会としても、これならば市民の方に説明ができ、レジ袋ゼロがスムーズにいくだろうと思つた。完璧ではないが、議会がこのような形に近づけたという自負があつた。それなのに、それを全部飛ばされた。非常に遺憾である。それが私の気持ちである。私見であろうが、言ったことは事実である。皆さんにお任せするというよりも、齊藤議長が判断されるべきことである。

<藤本議員>

他の方のご意見は。

<松山議員>

議長が今後どうされるのかは、私個人が言うことではないと思つている。商業者の

方からも怒りの電話があった。「コロナ禍でマスクを着けて、消毒液も設置してやっていたのに、もう止めてしまおうか」という声があった。商業をされていない方からも、「今まで市議会は市民のことを甘くみていたのでは」「このようなことで自分たちの町がよくなるのか、どう思っているのか」「嘘つき」と言われた。先輩方が議会改革に取り組まれた結果、亀岡市議会の今があると思っている。赤坂議員も言われたとおり、時代を逆行するような文書でのおわびではなく、フェイスブックや亀岡市のホームページに動画を1～2分程度で載せて、議長の思いとお詫びを市民の方に伝えていただくことも考え方の一つである。議会は是々非々であると言われる。改めて、市民に対しての説明とおわびが必要だと思っている。

#### <木村議員>

誤解を招いた発言について、電話をしておわびをされたと聞いたが、このような場合はすぐに皆さんと面談しておわびをされるべきだと思う。市民から選ばれて、市民の皆さんのために、亀岡市のために頑張っている活動しなければならない立場である。せっかく市長から、スタートアップ期間ということでよい案を出していただき、議会が終了したのに、私心のコメントを出されたことは取り返しがつかない。取り消しができない。どのようにおわびをされたのかはわからないが、早くこの話を終息していただきたい。皆さんの怒りは益々大きくなる。1日でも早く、市民の皆さんにおわびをしていただき、議長に判断していただきたい。よろしく願います。

#### <竹田議員>

この間についても、まずいところはあったらと思う。しかし、手が打てたと思う。幹事会でおわびをされた。そのあと、私心という言葉が出て、それもいかななものかという声があった。その時点で、市民の方に向けて記者会見をすることや、「本来亀岡市議会はこうですよ」と述べるべきだったと今思う。それをせずに、今日に至り、より不信感を抱いた。これは議会としての総意ではないということ、事業者を含めて市民の方に、公の場でしっかりとすべきであったと思う。これは我々も反省しなければならない。あとのことは、議長が判断すればよい。この間、議会として、議会の議長なり、議会の役をもっている方、議会を代表する方々については、そのような検証ができたときにすぐに対応できるような危機管理をしなければならない。今回の件を反省として、次に生かすために整理すべきと思う。

#### <山本議員>

今回議長として発言された内容については、コロナ禍で大変な中、商業者の方に寄り添うという点で残念な発言であったと思う。今後については、皆さんの意見でということであったが、議長がどうされるかについては議長ご自身で決めるべきであると思っている。

#### <富谷議員>

私も今回の発言の記事を読んで、あってはならないことであり、失言であると思っている。とても残念であり、悲しくもなった。年末に幹事会があったが、幹事長から事の次第を聞いた。このように全員協議会という形で、もっと早くされるべきであったと思う。今になってという感がある。皆さんの意見を聞かれて対応をすることであった。今日は、議長の思いを聞くことができると思って臨んだわけだが、皆さんのご意見から対応を検討していくと言われたので、愕然とした。議長自身で重く受け止めていただいて、今後あってはならないことだが、今回のことがよい前例となるように、賢明なご判断をよろしく願います。

#### <小松議員>

今回、このようなことになって残念である。コロナ禍で、議員に対して世間はかなり厳しい目で見ている。コロナに関係なくとも、それ以前から議員に対して不信感が高まっている。ネットでは、議員はコロナでも報酬をもらっていると言われていいる。議員に対する厳しい目を、議長として感じ取っていただきたい。マスコミの方がいらっしゃるので、このようなことをいうのはおかしいかもしれないが、記者は話題性のあること、目を引くようなことを記事にしたいということがあると思う。議長が切り取られたと言われたが、まさにいいように切り取られたのかなと思う。記者会見で述べたことは、議長としての公的な言葉であるので、私見はあってはならないことである。年末年始、議長も自粛されていた。あの記事に関心をもった商工業者の方たちには経緯がわかるが、全然わからない方たちにとっては、議長がなぜ公の場に出てこないのかわからないままである。よって、公の場で、議長としての釈明をしていただきたい。議会として、議長に対してどのような責任をとらせるかということではなく、やはり皆さんが言われるとおり、議長ご自身で判断してもらわなければならない。議長がどれほど責任を感じているかだと思ふ。地方議会の危機だと思ふ。それくらい、コロナ禍で皆が負担を感じ、不満を持っている。本当に辛い思いをしている中で、はけ口を求めている。亀岡市議会も、そうではないかと見られることは辛い。そのようなことを含めて、責任の取り方を議長ご自身で決めていただければと思ふ。

#### <長澤議員>

今回の一連の条例に至る経過として、2018年12月の市長と議長の共同宣言があったと思ふ。その宣言のときは、前任の議長だったかもしれないが、それは議長という職において継続されていると思ふ。さきほどお話にもあったが、去年3月の議会の際の若干のご発言は、条例の採決に向かおうという場面でのご発言である。今回は可決され成立した条例が施行に向かおうという場面でのご発言である。共同

宣言を踏まえてのお気持ちはわからなくはないが、これから採決に向かおうという一連では、やはり審議が尽くされているかどうかを見極めていただくことが、最大の議長の職責であると思う。これから施行に向かおうという点においては、この間、本会議でも委員会でもさまざまな意見があった。問題なくこれが施行されていくのかを、議会の総意として見極めていただくということが、あの時点での議長の職責だと思う。本会議や委員会でも新たな補助制度を考えるべきではないかという意見や、新清流会の方からは、少なくとも1月、2月については特別な配慮が必要ではないかとのご意見もあった。その次の最終の委員会では、1月、2月に特別な配慮をすることについて、私も賛同すると申し上げた。今回のことは、条例が問題なく施行されるかどうかを見極めるタイミングでのご発言として、大変残念であった。

<齊藤議長>

ご意見を深く受け止めて、出处進退は自分で決める。辞表も持ってきている。日にちの件もあるので、事務局に確認したい。

<事務局次長>

日にちについては、議会運営委員会、もしくは幹事会でご相談させていただきたい。よろしく願います。

<竹田議員>

議長は、開き直ったように、今それを出すべきではない。皆が議長に任せると言っているのだから、議長としてそのようなことをすべきでない。そのことを皆が言っている。十分反省していただきたい。

<齊藤議長>

申し訳ない。

<木曾議員>

自分の思いを出されたことは、それはそれでわからなくもない。先ほど、会派の皆さんを含めて頭を下げられた。どのような思いで、会派の皆さんが議長に対してされたのかと考えると、残念である。出处進退については、このあと自分で決めて、それから辞表を出されるべきである。それなのに、今出してどうするのか。それは、議長が副議長に対して出されるべきものである。スケジュールについての協議は、事務局と相談していただくことになると思う。手順がチグハグである。そもそも、3月に附帯決議をしたのだから、それを重く受け止めていれば、このようなことにはなっていない。そもそも、そこから間違っ、ズルズルときている。附帯決議は、全会一致だった。それを議会の総意として捌いたのは、議長である。それを大事にできなければ、これから我々が理事者に附帯決議をつけても、どこ吹く風になる。議長自らがそのようなことをしてしまえば、これから附帯決議は何の意味もなくな

る。進退について意思表示をされたが、それはあとの話である。今日は幹事長の顔もあるので、この場はしっかりと謝罪して、締めてほしい。

<三上議員>

皆さんの意見を聞いて、思ったことを言わせてほしい。僕も市民の皆さんから、「議長は本当にあのようなことを言われたのか」と聞かれた。僕が「そうだ」と答えると、フェイスブックでも「ま、いっか、で終わっていたので、そうだろうな。」と言われた。小松議員を悪くいうわけではないが、小松議員は、記者にいいように切り取られたのだろうと話された。議会として、我々が「記者にいいように切り取られた。」と答える場合と、「議長がそのとおり言われた。」と答える場合とでは、全然違ってくる。だから、今日の議題である記者会見についてと新聞記事の関連について、これは事実だと言ってほしかった。

<齊藤議長>

大変、皆さんには申し訳ない。三上議員がおっしゃったことは、幹事会でも申し上げた。「言った。」と言っている。私が言ったことは事実である。深くお詫び申し上げます。本当に申し訳ない。

### 3. その他

<齊藤議長>

その他で、お手元のチラシについて説明がある。事務局から説明をお願いします。

<事務局次長>

12月8日の幹事会でご案内させていただいた、全国市議会議長会と京都府市議会議長会の「2040未来ビジョン出前セミナー」のチラシが出来上がったので、お配りさせていただいた。見ていただく際のIDとパスワードについては、別途ご案内するので、少しお待ちいただきたい。よろしくをお願いします。

閉議 14 : 07